

Title	卸相場對小賣相場變動の一致率
Sub Title	
Author	高城, 仙次郎(Takagi, Senjirō)
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1925
Jtitle	法學研究 : 法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.4, No.4 (1925. 12) ,p.1- 28
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19251228-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

法學研究

第四卷第四號

卸相場對小賣相場變動の一致率

高城仙次郎

第一節 緒言

卸相場と小賣相場との間には自ら或る程度の開きを保つのは勿論であるも、此兩相場が異なりたる原則に依りて定まるのでなく、共通の法則に支配せられてゐるものなることは既に『三田學會雜誌』第十九卷第六號(大正十四年六月)「卸相場と小賣相場の關係について」に於て論述して置いた。然しながら、同一の法則が兩種の相場を左右してゐると言ふものゝ、兩者が常に同一の方向に且つ同一の程度に變動するもので無いことを看過してはならぬ。即ち或る時には卸相場が騰貴せるに小賣相場が却つて低落し、又或る時には卸相場が下落せるにも拘ら

ず、小賣相場が騰貴することすらある。是れは兩相場が同一の法則に支配せられながら、尙ほ異なる事情の影響を受くるからである。斯くの如く卸相場と小賣相場とが必ずしも同一の歩調を以て騰落しないのは毫も不可思議のことでない。即ち夫れは甲乙二種の商品の卸相場若しくは此等商品の小賣相場が同一の方向に且つ同一の程度に變動しないと毫も異なるのである。例へば通貨の數量が激増した場合には大多數の貨物の卸相場並に小賣相場は大約通貨膨脹の程度に比例して騰貴するのを常とするものであるが、必ずしも總ての貨物の卸相場並に小賣相場は其程度に騰貴せずして、或る市價は夫れ以上に、又或る市價は夫れ以下に昂騰するのみならず、少數の貨物は特種の事情の爲めに却つて低落することがある。

同一貨物の卸相場と小賣相場との間に於ても之と同じく其の變動の方向と程度とを異にすることがある。卸相場と言ひ、又小賣相場と謂ふも、同一貨物の販賣價格なる上は、其の一角が騰貴若しくは低落すれば、他も同一の程度にて騰貴若しくは低落す可き筈のやうに考へる人も多からうと思ふが、實は縱令同種類の貨物と

雖も否な全然同一の貨物と雖も、夫れが卸取引にて賣買せらるゝ場合と小賣取引にて賣買せらるゝ場合とでは別箇の貨物と看做し得るのみならず、多少種類を異にせるものであるかのやうに作用することがある。例へば帽子商が製造者より仕入れたるときは、麥稈帽子と消費者に販賣する際に於ける同一の麥稈帽子とは、勿論物質として觀たる場合には、全然同一物であらうが、經濟的には必ずしも常に兩者を同一物視することを得ない。如何となれば、卸市場に於ける麥稈帽子の需給關係と小賣市場に於ける麥稈帽子の需給關係とは自ら異なつてゐるからである。

第二節 卸相場と小賣相場との間に於ける騰落の一致

然らば卸相場の騰落と小賣相場の騰落とは如何なる程度まで實際に於て一致するものであるか、換言すれば卸相場が騰貴したるときに小賣相場も亦騰貴し、卸相場が下落したるときに小賣相場も亦低落する場合の度数と、卸相場が騰貴したとき小賣相場が低落し、卸相場が低落したときに小賣相場が却つて騰貴する場合の度数との間に於ける割合は實際に於て何の位になつてゐるであらうか。勿論

此割合は貨物毎に異なつてゐることは言ふまでも無い。唯其の大體の傾向を示す爲めに、左に數種類の貨物に就きて此割合の計算を試みて見やう。

此試算を行ふ爲めに最初に選んだのは東京商業會議所の調査に係る東京物價の一部分である。東京商業會議所では卸相場を基礎とする物價指數と小賣相場を基礎とせる物價指數とを編纂發表してゐるが、前者は八十一種の貨物の卸値段を取れるに反し、後者は四十七種の貨物の小賣値段を收めてゐるに過ぎ無い。従つて東京商業會議所の卸物價指數と小賣物價指數とを其儘對照せしめて、東京市内に於ける卸相場變動の程度と小賣相場變動の程度とを比較することを得無い。加之、小賣相場を載せたる四十七種の貨物すら全部必ずしも卸物價指數に編入せる八十一種の貨物中の或る物と符合し無いのであつて、全然兩種物價指數に共通せる貨物と看做し得るは左に掲ぐる七種の商品に過ぎ無い。

(一)大豆

(二)小豆

(三)馬鈴薯

(四)小麥粉

(五)味噌

(六)鯉節

(七)鶏卵

此の中(一)大豆の卸相場と小賣相場とが大正十三年一月より十二月までに月々

如何に變動したかを東京商業會議所報に載せたる卸物價表と小賣物價表に據りて觀るに、前月に比して卸相場も小賣相場も共に騰貴した度數が二回、兩者共に低落した度數も二回あつた。然し一回は卸相場が騰貴せるに、小賣相場は却つて低落してゐる。尙ほ此の外卸相場が騰貴せるにも拘らず、小賣相場が騰貴も低落もしなかつたことが四回で、卸相場が低落せるに、小賣相場が少しも變動し無かつたことが三回ある。

若し斯くの如く卸相場が騰貴又は低落せるにも拘らず、小賣相場が變動しなかつたことをば卸相場の變動と小賣相場の變動との不一致を示すものであるとするならば、大正十三年中に於ける大豆の卸相場と小賣相場とが同一に變動したのは十二ヶ月中僅かに四ヶ月であつて、一致の割合は三分の一、即ち三割三分に過ぎ無い。然しながら若し之に反して、卸相場が變動せるに拘らず小賣相場が騰貴又は低落せず、或は又卸相場が騰貴も低落もせざるにも拘らず、小賣相場が騰貴若しくは低落することは卸相場の變動と小賣相場の變動との一致を示すものでないと同時に、又必ずしも兩相場が正反對に變動せることを示すもので無く、孰れとも

付かさざる傾向を呈せるものとして之を除外するとすれば、此傾向を呈したる七ヶ月を除き、他の五ヶ月に於て兩相場變動の一致不一致の割合を計算しなければならぬ。若し此計算方法を用ゆるとすれば、五ヶ月中にて兩相場が同一の方向に變動したことが四回あつて、反對の方向に變動したことが一回であるから、卸相場の變動と小賣相場の變動との間に於ける一致の割合は五分の四、不一致の場合は五分の一に相當する。

同一の方法に依りて大豆以外の六種の貨物の卸相場と小賣相場とが大正十三年中に於て如何に變動したかを觀るに、左表に示すが如き状態を呈してゐる。

	卸相場	小賣相場	小豆	馬鈴薯	小麥粉	味噌	鯉節	鶏卵
騰貴	騰貴	騰貴	四	六	二	一	一	三
下落	下落	下落	一	三	一	一	一	四
騰貴	騰貴	下落	二	一	一	一	一	一
下落	騰貴	騰貴	一	一	一	一	一	一
不變	騰貴	騰貴	一	一	一	一	一	一

不變	下落	1	1	1	1	1
騰貴	不變	2	3	4	1	4
下落	不變	3	1	3	1	2
不變	不變	1	1	1	7	6
計		11	11	11	11	11

今假りに卸相場と小賣相場とが共に騰貴するか或るは低落するか或は又兩者共に全然變動しなかつたことを變動の一致と看做し、其の他の關係を不一致と看做すとすれば、前表に示したる六種の貨物の卸相場と小賣相場との間に於ける變動の一致と不一致とは左の如くである。(大豆も参照の爲めに加へる)

貨物	一致の座數	同上百分比	不一致の座數	同上百分比
大豆	4	33.3 ^分	8	66.7 ^分
小豆	5	41.7	7	58.3
馬鈴薯	9	75.0	3	25.0
小麥粉	3	25.0	9	75.0

卸相場と小賣相場變動の一致率

味	噲	八	六六・七	四	三三・三
鯉	節	六	五〇・〇	六	五〇・〇
鶏	卵	七	五八・三	五	四一・七
平	均	六	五〇・〇	六	五〇・〇

右表に示すが如く一致の度数は十二ヶ月の中麥粉の三回を最少限度とし、馬鈴薯九回を最大限度としてゐる。百分比を以て割合を示せば、小麥粉の卸相場と小賣相場の一致は二割五分であつて、馬鈴薯の一致は七割五分に上つてゐる。而して其の平均は偶然六回、即ち五割に相當する。又、不一致の度数は麥粉の九回を最大限度とし、馬鈴薯の三回を最少限度としてゐる。而して一致の度数が六回であるから、不一致の度数も亦六回であるは勿論である。

然しながら若し卸相場が變動せざるに小賣相場が騰貴又は低落し、卸相場が騰貴又は低落したるに小賣相場が變動せざりし場合をば上述の理由に基きて除外するとすれば、變動の一致は次表の如くなる。

貨物 一致の度数 同上百分比 不一致の度数 同上百分比

大豆	四	八〇・〇 ^分	一	二〇・〇 ^分
小豆	五	七一・四	二	二八・六
馬鈴薯	九	一〇〇・〇	一	一
小麥粉	三	六〇・〇	二	四〇・〇
味噌	八	八八・八	一	一一・一
鯉節	六	一〇〇・〇	一	一
鶏卵	七	七七・二	二	二二・二
平均	六	八二・六	一・一四	一七・四

右表に示すが如く一致の程度は馬鈴薯並に鯉節の十割を最高とし、麥粉の六割を最低とし、其の平均は八割二分六厘に相當してゐる。之に反して不一致の程度は麥粉の四割を最高とし、味噌の一割一分一厘を最低として、其の平均は僅かに一割七分四厘に過ぎ無い。

之を要するに、卸相場と小賣相場とは常に同一の方向に變動するものではないが、同一の方向に變動することは反對の方向に變動することよりも遙かに多いの

である。

尙ほ参考の爲めに米國の勞働者が調査したる數種貨物の卸相場の變動と小賣相場の變動に基きて此兩變動の關係を示すことにする。此比較の爲めに選んだのは(一)紐育市のラード(精製豚脂)(二)同じく紐育市の牛乳(三)市俄古市のチーズ(乾酪)、(四)ミネアポリス市の小麥粉(五)紐育市の砂糖粗目(六)市俄古市の鶏卵(七)同じく市俄古市のバタの七種貨物の千九百十三年より千九百二十二年に至る十ヶ年間に於ける連月の卸相場並に小賣相場の變動であつて、月の數は百二十であるが、比較の出發點を千九百十三年の一月と定めたので、比較の合計は百二十月なり一を除きたるもの、即ち百十九である。但し千九百二十年の四月より七月までの四ヶ月に對しては砂糖卸値段の調査を缺いてゐるから、此四ヶ月に對する小賣相場をも除外することにし、同年八月に於ける兩相場の變動は三月の市價を標準として比較することにした。従つて砂糖に限り變動の比較は百十五箇に過ぎ無い。

左表は東京物價の變動表と同様に作製したる右の米國物價の變動表である。(註)

卸相場 小賣相場 ラード 牛乳 チーズ 小麥粉 砂糖 鶏卵 バタ

たるに、次の如き結果を得た。

貨物	一致の度数	不一致の度数	合計	一致の百分比	不一致の百分比	合計
ラード	七四	二七	一〇一	七三・三分	二六・七分	一〇〇・〇分
牛乳	五八	四	六二	九三・五	六・五	一〇〇・〇
チーズ	五三	三九	九二	五七・六	四二・四	一〇〇・〇
小麦粉	七六	一二	八八	八六・四	一三・六	一〇〇・〇
砂糖	七八	一一	八九	八七・六	一二・四	一〇〇・〇
鶏卵	九八	一八	一一六	八四・五	一五・五	一〇〇・〇
バター	九六	一七	一一三	八五・〇	一五・〇	一〇〇・〇
平均	七六	一八	九四	八一・一	一八・九	一〇〇・〇

右表に示すが如く、チーズは最低の一致率を呈してゐるが尙ほ其の割合は五割七分六厘に達し、一致率の最も高き牛乳は九割三分五厘に上つてゐる。而して七種貨物の平均一致率は八割一分一厘に達してゐる

註 Bulletin of the United States Bureau of Labor Statistics No. 334. pp. 184-207.

第三節 卸相場の變動率と小賣相場の變動率との比較

前節にて卸相場と小賣相場とは大多数の場合に於て同一の方向に變動するものであることを示したが、同じく變動と言ふも、百分の一の變動に過ぎざることもあるれば、又騰貴にせよ低落にせよ、其變動が百分の十以上に達することもあらう。然らば卸相場は如何なる程度まで一ヶ月間に變動するものであり、又小賣相場は幾何の變動性を持つてゐるものであるか。換言すれば、卸相場の變動性と小賣相場の變動性との間には如何程の相違が存してゐるか。此關係を明かにする爲めに、矢張り上掲の東京市内に於ける七種の貨物、即ち大豆、小豆、馬鈴薯、小麥粉、味噌、鰹節並に鶏卵の卸相場及び小賣相場に關する東京商業會議所の調査を基礎とし、大正十三年一月より十二月に亘りて、前月に對する各月の騰貴率又は低落率をば前月の價格を標準とし百分率にて計算して、左表を作製した。

月	品目	大豆	小豆	馬鈴薯	小麥粉	味噌	鰹節	鶏卵	平均
一月	卸	大玉	小玉	白	竹印	上赤	伊豆本節	地玉	平均
二月	卸	△0.8	△1.2	△0.5	△0.9	△1.1	△1.3	△1.5	△1.2
三月	卸	△0.5	△0.8	△0.6	△0.9	△1.1	△1.3	△1.5	△1.2

卸相場對小賣相場變動の一致率

四月	平一	一六〇	一	一三五	三〇〇	△二六	△七一	一	△五〇	一	二〇八	一	四〇四	四〇六
五月	一三三	一八四	五〇三	一〇七	三三〇	三〇八	一	一	一	一	五七	一〇〇	四三	五〇
六月	〇・五	一	七・五	五〇	△四〇	△四七	二〇	一	一	一	六八	△四	八	八〇
七月	△一四	一	△〇五	一	△二六	△三三	〇八	二・五	一	△三三	一	三三	三三	五五
八月	四・五	五〇	△〇五	一	一五	一四三	三八	一	一	〇七	一	五〇	四〇	七七
九月	九・六	七一	△二〇	一	四六	一五〇	七一	一五	一	五五	一	四〇	七〇	七〇
十月	五・五	△二六	二一〇	△四八	△三六	△〇〇	△六七	六三	△四八	三三	△〇九	一	△五	二九
十一月	△二六	△四八	△三三	△五〇	七七	一	△七一	一	六七	二〇	一	△四	△三	△九
十二月	△四九	一	五二	一	五五	一	〇八	一	一	一	△三	△三	△九	一
平均	四・五	二九	六六	五五	一四	一六	三三	五五	二一	一八	〇八	一	三三	九

備考 △は下落



右表に就きて、先づ各月に於ける七種貨物の卸相場と小賣相場との變動率の平均を比較するに、卸相場の變動率が小賣相場の變動率よりも高かつた月は一、三、四、六、八、十、十一、並に十二の八ヶ月であつて、小賣相場の變動率が卸相場の變動率よりも高かつたのは二、五、七、九の四ヶ月である。次に各貨物の變動率の十二ヶ月の平均を取るに、卸相場の變動が小賣相場の變動よりも著しいのは大豆、小豆、味噌、經節

卸相場對小賣相場變動の一致率

四月	一・八三	〇・六五	五・七一	—	九・六六	一・〇〇	四・四三	—	二・六八	二・〇九	二・二四	七・八四	四・八八	一・〇六
五月	—	一・三六	九・〇九	—	二・九元	—	四・五三	—	二・四〇	三・九八	三・〇〇	二・六七	五・〇三	三・五五
六月	〇・八九	二・五五	六・六七	—	九・五八	一・九九	四・〇七	三・四三	—	二・七五	二・五三	一・八〇	〇・六三	三・六六
七月	四・四〇	〇・三二	七・四四	—	五・〇〇	—	四・〇〇	—	九・七六	三・〇八	四・三三	四・〇三	一・三三	五・四〇
八月	一・三二	—	一・六・六七	—	〇・七五	—	—	—	二・三三	二・〇四	三・〇五	七・九一	一・三三	六・六八
九月	〇・八八	〇・六三	八・五七	—	六・八二	二・〇〇	四・〇七	—	二・二七	二・〇〇	三・四三	二・五八	七・九五	七・四八
十月	五・三二	—	五・三六	—	三・五三	—	—	—	六・七五	三・七五	三・九八	九・五三	一・九七	〇・三九
十一月	一・七六	〇・六一	—	—	三・四二	一・五八	—	—	—	二・四三	二・九三	五・九三	三・一一	五・一〇
十二月	〇・五三	〇・三三	—	—	二・八四	—	—	—	二・五八	—	〇・五〇	九・五〇	四・九三	二・五五
一九一四年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一月	一・五二	一・三三	—	—	二・一〇	—	—	—	四・〇八	四・〇八	二・九六	五・〇〇	六・六五	〇・五三
二月	二・七五	一・九五	五・〇〇	—	—	—	三・五七	—	四・三六	二・四〇	二・五三	二・五三	二・六五	三・四四
三月	〇・五五	〇・六四	七・九八	—	一・八二	一・六八	四・五三	三・四三	二・五三	—	一・八三	二・五八	—	三・〇七
四月	一・八九	〇・六四	五・七一	—	四・九三	—	四・〇七	三・五三	二・五三	二・三三	二・七五	二・五〇	九・五三	八・三二
五月	二・八八	〇・六四	一・八二	—	五・八八	二・七二	四・五三	三・四三	八・一一	—	二・三三	七・八〇	四・〇八	六・三三
六月	—	一・元	三・七〇	—	四・〇七	—	四・〇七	—	五・〇〇	二・二七	一・六二	三・八八	四・七一	三・〇二
七月	〇・九八	〇・六四	七・二四	—	二・九〇	—	—	—	三・三三	二・七五	六・七三	一・三三	一・〇〇	二・一四
八月	三・五三	—	一〇・〇〇	—	三・三三	—	二・七五	一・七五	二・五三	二・五三	六・七三	八・三二	六・三三	七・七〇

一九一五年

九月	月	三〇・六	三〇・六	六〇・六	一	三〇・七	一	七〇・四	三〇・八	四〇・二	一	三〇・六	四〇・二	二〇・六	一〇・七	二〇・一	四〇・五	二〇・六
十月	月	一〇・九	二〇・四	一〇・九	一	三〇・〇	一	三〇・〇	一	三〇・〇	一	三〇・〇	一	三〇・〇	一	三〇・〇	一	三〇・〇
十一月	月	七〇・七	〇・六	七〇・七	一	二〇・七	一	三〇・〇	二〇・八	一八・九	一	二〇・八	一八・九	二〇・八	一八・九	二〇・八	一八・九	二〇・八
十二月	月	七三・〇	〇・六	七三・〇	一	二〇・七	一	二〇・六	二〇・四	一	二〇・九	一	二〇・九	〇・九	〇・九	〇・九	〇・九	〇・九
一月	月	四〇・五	一	四〇・五	一	二〇・二	一	二〇・二	一〇・九	二〇・八	一	二〇・七	二〇・二	二〇・二	二〇・二	二〇・二	二〇・二	二〇・二
二月	月	三〇・六	一〇・七	四〇・八	一	五〇・三	一	三〇・三	九〇・六	二〇・三	一	七〇・七	二〇・三	二〇・三	二〇・三	二〇・三	二〇・三	二〇・三
三月	月	四〇・八	〇・六	二〇・六	一	二〇・七	一	二〇・三	三〇・三	三〇・三	一	三〇・三	三〇・三	三〇・三	三〇・三	三〇・三	三〇・三	三〇・三
四月	月	一	三〇・三	三〇・六	一	二〇・七	一	一〇・七	三〇・三	三〇・三	一	三〇・三	三〇・三	三〇・三	三〇・三	三〇・三	三〇・三	三〇・三
五月	月	一〇・〇	二〇・〇	三〇・三	一	三〇・三	一	二〇・七	一〇・七	一〇・七	一	二〇・七	二〇・七	二〇・七	二〇・七	二〇・七	二〇・七	二〇・七
六月	月	六三	一	一	一	六三	一	二〇・二	二〇・二	一	三〇・九	一	一八・一	〇・三	〇・七	二〇・三	二〇・三	二〇・三
七月	月	二〇・九	一〇・七	二〇・九	一	二〇・九	一	一〇・八	一〇・七	一	二〇・九	一	二〇・九	二〇・九	二〇・九	二〇・九	二〇・九	二〇・九
八月	月	一	三〇・〇	一〇・一〇	一	一〇・六	一	二〇・二	三〇・七	二〇・九	一	二〇・九	二〇・九	二〇・九	二〇・九	二〇・九	二〇・九	二〇・九
九月	月	二〇・七	三〇・〇	六〇・六	一	三〇・〇	一	三〇・三	三〇・三	三〇・三	一	三〇・三	三〇・三	三〇・三	三〇・三	三〇・三	三〇・三	三〇・三
十月	月	三〇・三	一〇・七	八〇・七	一	三〇・〇	一	三〇・〇	三〇・〇	三〇・〇	一	三〇・〇	三〇・〇	三〇・〇	三〇・〇	三〇・〇	三〇・〇	三〇・〇
十一月	月	一〇・九	一	一〇・六	一	七〇・七	一	三〇・〇	三〇・〇	三〇・〇	一	三〇・〇	三〇・〇	三〇・〇	三〇・〇	三〇・〇	三〇・〇	三〇・〇
十二月	月	六三	二〇・〇	一	一	三〇・〇	一	三〇・〇	三〇・〇	三〇・〇	一	三〇・〇	三〇・〇	三〇・〇	三〇・〇	三〇・〇	三〇・〇	三〇・〇

一九一六年

御相續對小賣相繼運動の一致率

御相場對小宮相場獎勵の一覽表

一月	五・五	一・五	四・六	一	四・七	四・九	六・五	二・八	三・九	一・六	一・七	二・六	八・六	二・九	四・七	二・六
二月	〇・六	〇・六	二・四	一	二・五	〇・八	三・九	三・四	三・三	一・九	一・七	三・〇	四・七	一・四	三・〇	四・〇
三月	九・七	一・三	三・〇	一	三・四	〇・四	〇・九	七・六	一・〇	七・二	二・〇	七・九	一・〇	七・〇	八・〇	六・〇
四月	七・〇	〇・六	二・三	一	一・〇	〇・八	六・六	一	七・五	五・八	六・八	一・六	二・五	二・五	六・九	一・六
五月	八・六	四・三	九・〇	一	四・九	一	一	五・五	八・三	三・四	〇・二	二・六	六・八	三・〇	六・八	三・〇
六月	一	二・四	六・七	一	六・四	〇・三	九・九	二・七	一・三	一・七	〇・六	八・六	三・〇	三・〇	四・〇	二・五
七月	一	一・〇	一・七	一	一・六	六・九	一	一・三	一・三	五・〇	六・〇	三・二	四・〇	三・二	四・〇	一・八
八月	四・六	一・九	二・九	一	四・二	三・三	三・八	三・七	六・七	一・七	八・〇	二・〇	七・〇	二・九	一・〇	三・六
九月	八・六	六・四	三・七	一	二・八	六・四	二・六	六・八	八・七	二・〇	六・〇	九・六	七・五	八・四	一・〇	六・四
十月	六・四	七・六	三・四	一	四・三	四・九	六・九	二・九	二・七	一・〇	六・九	六・八	三・一	三・一	二・八	六・一
十一月	九・九	七・四	四・〇	一	三・六	六・六	六・八	一・〇	四・四	八・二	一・七	三・〇	三・三	七・六	三・三	七・五
十二月	二・六	三・八	一	一・〇	一・五	二・三	三・〇	三・四	六・七	五・〇	六・四	二・五	一・三	二・八	四・四	三・九

一九一七年

一九一八年

六月	五.七六	七.八八	四.七	一.六八	〇.七〇	六.八八	六.七七	五.〇六	七.六六	七.〇〇	一.〇〇	二.〇〇	〇.七六	四.七七
七月	五.〇九	五.六六	八.七〇	四.九六	五.八〇	〇.九八	八.四四	二.八四	一.〇〇	二.五五	一.七五	〇.七六	四.七七	五.二二
八月	三.九四	三.五三	三.〇〇	九.六五	三.三三	〇.八八	五.〇八	八.六六	九.五三	七.二四	六.〇六	四.三三	六.八八	八.〇一
九月	六.六二	六.九二	一.〇八	九.六五	〇.六六	二.四九	三.七〇	一.三三	二.〇〇	八.六四	六.五五	八.〇二	六.六二	五.八八
十月	三.七五	六.六六	三.〇〇	二.三九	〇.八四	六.六四	五.三六	五.二七	一.五〇	〇.四四	八.〇六	一.四一	〇.二二	四.〇〇
十一月	三.六六	三.五三	六.四四	一.四四	三.五八	一.六六	五.七〇	五.三六	一.〇〇	三.三三	五.六六	二.三三	一.〇三	六.三三
十二月	八.六六	一.二二	六.九六	一.二二	二.二二	一.〇六	二.四四	一.〇〇	二.〇〇	一.八八	八.〇二	七.七五	五.七五	四.七二
一月	一.七五	二.〇八	二.三三	七.二四	四.九六	二.四六	一.三三	七.〇〇	二.〇〇	二.〇〇	二.〇〇	一.〇〇	二.三三	七.七五
二月	七.七五	〇.五〇	四.九四	二.六五	二.〇三	〇.五五	五.七二	一.五五	六.二二	三.三三	八.〇一	六.一五	〇.三三	六.三三
三月	七.六六	〇.九二	二.六〇	一.七五	一.〇六	五.〇七	一.〇六	一.〇〇	五.〇〇	三.〇〇	三.三三	四.一五	七.〇〇	八.六六
四月	五.〇二	一.三三	三.五五	二.〇八	七.五五	一.〇〇	一.〇〇	一.〇〇	四.〇〇	六.三三	六.三三	九.〇〇	六.三三	四.〇〇
五月	五.六六	二.〇〇	一.六六	七.二二	一.二二	五.三三	七.三三	一.〇〇	二.二二	四.三三	一.〇〇	五.三三	一.〇〇	五.三三
六月	一.二二	一.二二	一.二二	一.二二	一.二二	一.二二	一.二二	一.二二	一.二二	一.二二	一.二二	一.二二	一.二二	一.二二
七月	七.七五	一.三三	三.三三	〇.六六	四.〇〇	〇.六六	一.七五	一.八八	一.六六	二.〇〇	二.三三	九.〇〇	二.〇〇	二.〇〇
八月	一.〇九	〇.九二	一.六六	二.〇三	七.二二	三.八八	五.〇〇	一.〇〇	二.二二	四.〇〇	二.三三	二.〇〇	五.三三	五.〇〇
九月	一.三三	五.〇八	七.五五	一.二二	四.二二	五.三三	一.〇〇	一.〇〇	二.二二	二.二二	二.二二	二.二二	二.二二	二.二二
十月	二.二二	一.六六	三.三三	二.二二	三.三三	五.〇〇	一.〇〇	一.〇〇	二.二二	二.二二	二.二二	二.二二	二.二二	二.二二

細柳海小賣相場變動の一表

三月	一	五・七	二・四七	一	一	二・九	二・四	八・七	三・三	三・二	六・〇	二・〇	四・七	九・八
四月	四・六	二・六	三・六	二・八	二・五	一・九	三・〇	〇・〇	八・三	七・七	三・三	一・〇	四・〇	五・〇
五月	四・〇	三・〇	一	一	一・三	一・六	八・四	×××	△△△	〇・九	一・〇	六・七	四・〇	五・〇
六月	〇・六	一・〇	九・四	一	一〇・一	六・五	四・四	×××	△△△	〇・九	五・八	七・五	六・一	二・五
七月	七・六	〇・六	四・八	六・七	一三・〇	四・四	二・七	×××	△△△	九・三	四・七	〇・七	二・九	三・九
八月	一・〇	三・六	二・四	六・五	一	二・六	二・四	×××	△△△	二・三	二・三	二・九	六・七	五・二
九月	六・五	一	七・九	五・八	六・九	一・八	三・三	一・二	四・七	三・六	二・九	九・〇	五・九	七・九
十月	二・九	七・三	一	六・四	〇・六	一〇・九	九・〇	二・四	二・八	八・六	一〇・七	〇・二	七・五	七・〇
十一月	七・六	〇・六	一	一・三	三・九	一七・四	二・八	二・二	二・〇	六・九	二・八	三・八	八・七	七・三
十二月	三・五	一・五	一〇・七	五・六	九・四	一	二・三	六・五	二・七	二・〇	五・九	三・九	二・七	九・六

一九二一年

一月	四・〇	三・〇	一	三・四	一・〇	六・三	七・〇	六・七	七・三	二・五	七・〇	四・九	〇・五	五・四
二月	八・〇	七・五	一七・五	五・八	七・六	一四・九	四・八	六・六	八・九	四・四	二・四	一・四	七・〇	三・二
三月	二・四	四・六	一六・三	六・五	〇・〇	一・六	四・六	一	九・八	九・七	三・〇	三・六	二・八	八・四
四月	三・六	四・〇	一	二・八	〇・二	八・九	五・三	六・四	一・二	三・八	一・九	二・七	〇・五	一・〇
五月	七・三	七・八	七・六	一	三・八	八・二	九・七	一・八	二・七	九・八	〇・三	一・五	二・九	九・四
六月	三・三	三・六	三・〇	四・七	〇・三	三・三	二・三	七・三	九・三	五・四	九・六	九・三	一・〇	七・〇
七月	八・四	三・七	一〇・〇	二・〇	一〇・一	〇・五	二・七	一	八・七	一・九	三・三	三・〇	三・八	八・七

卸箱對小賣相續變動の一表率

御相場對小賣相場變動の一表

八月	一・六五	八・六七	三・七六	七・四二	二・二四	三・五五	八・八九	五・〇八	三・五五	九・三三	三・六六	七・二八	四・六六	七・〇三	九・五八	六・九九
九月	三・六六	三・二九	—	—	〇・五五	—	二・四四	一・七九	三・四四	三・八〇	二・六六	四・三三	一・五八	一・三三	三・〇七	三・三六
十月	二・〇三	一・〇〇	二・四九	—	三・二七	〇・二八	九・三三	三・六四	七・二四	七・七〇	三・五三	一・八〇	四・七八	七・二八	三・三三	三・三三
十一月	三・九二	三・五五	—	—	〇・五二	〇・八五	二・六五	七・五五	—	三・五三	一九・八八	二・〇五	一・八〇	一・七五	四・〇〇	三・六七
十二月	四・〇八	一・二八	—	—	一・九三	三・四〇	—	三・八五	一・七三	三・三四	三・九〇	〇・五三	〇・五九	二・〇〇	一・五三	一・五三
一九二二年																
一月	六・五八	五・五五	七・〇六	—	三・〇九	〇・八四	二・六六	四・〇八	四・〇〇	八・七二	三・六三	三・二〇	五・二二	二・〇三	二・二二	三・三三
二月	一・〇〇	〇・六三	二・七四	—	二・〇〇	一・四二	三・八九	八・五二	二・〇八	三・九五	二・四三	三・二〇	四・〇三	八・〇四	三・二二	三・二二
三月	一・六九	三・五三	二・四〇	—	三・四四	二・〇〇	二・四四	三・九二	六・二二	五・六六	二・八四	三・四三	三・八八	一・四八	八・八三	七・六七
四月	三・四四	二・九八	八・三〇	—	六・六七	二・五〇	一・七五	五・〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—
五月	六・三三	四・八三	四・四二	—	七・二四	三・〇五	二・七二	—	—	—	—	—	—	—	—	—
六月	一・六九	二・五三	—	—	七・二〇	一・三三	七・三三	三・七二	二・三三	八・三三	七・〇八	一・四三	三・四四	〇・九三	五・四三	二・六三
七月	三・三一	—	三・七五	—	七・九三	三・八七	二・四四	三・三六	三・九二	二・六二	二・二二	二・四四	三・六八	一・九四	四・〇三	四・二四
八月	三・四二	〇・七二	一・八三	—	七・二四	一・〇五	一・七二	一・〇〇	三・六三	一・三三	八・三三	三・〇〇	一・二七	三・〇八	三・五七	四・四三
九月	—	一・七二	七・八一	—	二・八三	一・二六	二・二二	一・八〇	三・五三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三
十月	三・四四	二・五三	—	—	二・九四	四・九三	三・二二	二・二七	四・三三	一・七三	一・八三	一・四〇	一・四〇	一・四〇	一・四〇	一・四〇
十一月	三・四二	〇・七二	—	—	二・九三	四・九三	三・二二	二・二七	四・三三	一・七三	一・八三	一・四〇	一・四〇	一・四〇	一・四〇	一・四〇
十二月	三・九二	一・二二	一・四九	—	六・六七	八・六二	三・七四	二・三四	二・七三	一・三三	—	一・六三	九・三三	七・五三	九・三三	七・五三

平均 四・五九 二・七五 七・四三 二・〇〇 五・五三 二・〇〇 五・四五 四・〇五 五・七三 五・九二 一・五五 一〇・一九 六・三三 五・六七 四・六五 四・六五

備考 表中×××印は調査の缺けたるものを示し、△△△印は調査は有れど比較するものなきに由り、割除せる箇所を現はす爲めに用いた。

右表の示す如く、百十九ヶ月砂糖は百十五ヶ月の平均を取れば、小賣相場の率が卸相場の變動率に超過せるは七種貨物の中にて砂糖のみであつて、他の六品、即ちラード、牛乳、チーズ、小麦粉、鶏卵、並にバターに在りては卸相場の變動率は小賣相場の變動率よりも高い。更に百十九ヶ月に亘る七種貨物の總平均に就きて觀るに、卸相場の變動率は一ヶ月平均六分六厘三毛乃至六分六厘七毛に上つてゐるが、小賣相場の變動率は四分六厘五毛を示してゐるに過ぎない。即ち此兩變動率の差は約二分に達してゐる。此懸隔は小賣相場の變動率を標準とすれば四割の開きに相當し、卸相場の變動率を標準とするも尙ほ二割五分以上の開きに相當するのである。

註 第二節の註參照

卸相場對小賣相場變動の一致率

第四節 小賣相場の變動率の低き原因

前節に於て小賣相場が概して卸相場程に變動せざるものであることを明かにしたが、然らば何故に小賣相場の變動率は卸相場の變動率よりも低いのであるか。勿論是れには種々の原因がある。左に其の主なるものゝ説明を試みやうと思ふ。

第一款 小賣値段は整数たることを要する

卸取引は通常數量が多い爲めに、卸値段が一個に付十一錢一厘と言ふが如き端數を有する價格であつても、取引當事者は大なる不便を感じ無い。即ち賣買量が百個ならば、總價額は十一圓十錢であり、又千個ならば百十一圓になる。然るに小賣取引に在りでは一個二個と言ふが如き少量の賣買が行はれることがあるから、十一錢一厘とか九錢八厘とか言ふが如き五厘以外の厘位を有する價格を付するは、一厘錢二厘錢等の流通してゐた時代はいざ知らず、五厘以外の厘位の通貨を使用せざる今日に於ては、不便のみならず不可能である。斯くの如く單價に五厘以外の厘位を付することの出来ないのは小賣商品のみならず、郵便葉書、郵便切手、印紙、鐵道並に電車賃金及び其他總ての料金皆な然りと云へる。否な單に價格は錢

位以下の端數を有せざるを便宜とするに止まらずして、賣價は成る可く五錢、十錢又は十五錢と云ふが如き釣錢を要せざる極りの好き數に定めるを得策とする。時としては客引政策上九十八錢とか四十九錢とか言ふが如き正札を付けて、恰かも一圓に對して二錢、又は五十錢に對して一錢の割引を行へるが如く裝ふこともあるが、購買者は普通銅錢一二枚の授受の爲めに時間を數分間も浪費することをおまないから、賣價を成る可く代金の授受に便なる數に定むるを得策とするのである。否な此事は或る程度まで實行されてゐる。

斯くの如く小賣値段は錢位以下の端數を有せざるものと爲す必要あるのみならず、出來得る限り五錢又は十錢若しくは其の倍數に定めるを得策とするのであるから、原價に相當の口錢を加へたるものを標準として便宜の價格を一旦定めたる上は、原價即ち卸相場が一二分騰貴したからこゝで、小賣商人が直ちに夫れ丈け小賣値段を引上げないことがある。例へば或る商品の卸相場が八十錢であつて、之に二十錢の口錢を加算して、一個一圓に販賣しつゝあつた際に、若し假りに卸相場が八十一錢に騰貴したならば、小賣商人は小賣値段を一圓一錢に引上ぐるかと言

ふに、通例原價が尙ほ二三錢騰貴するのを待ちて、一時に一圓五錢位に値上する。原價が低落したときに於ても亦然りである。従つて小賣相場の變動は卸相場程に頻繁で無い。而して小賣相場變動の度数が尠ないが、其變動の平均率は卸相場變動の平均率よりも低くなるのである。

第二款 小賣値段變更の技術上の障礙

上述の如く小賣値段は極りの好き數に定めるを得策とする必要上頻繁に引上げ又は引下ぐることを避くるを常とするのであるが、縱令小賣値段に端數を生じても差支ないとするも、頻繁に賣價を變更することは技術上頗る困難である。卸商の取扱ふ貨物は一種類丈けである場合もあり、數種に上る場合でも品種は多からざるを常とするから、毎日卸値段を變更しても取扱上大なる不便を感じ無い。之に反して各小賣商人の取扱ふ貨物は、白米商、石炭商等の如き少數の例外を除き、普通其の數頗る多く、時としては數百種數千種に上ることがある。従つて若し此等多數の貨物の賣價が卸相場の如く殆んど毎日變更さるゝが如きことありては、店員は一々之を暗記することを得ないから、種々の手違ひを生ずるの虞れがある。

假りに各種の賣品に正札を付くるとすれば、此問題を解決することが出来るが、數百乃至數千の正札を毎日變更するは非常な手数と費用を讓すことになる。其の結果として技術上よりして賣價の頻繁なる變更は之を避けねばならない。

第三款 信用上の問題

又、假りに小賣値段を毎日引上げ若しくは引下ぐることが技術上困難で無いとしても、小賣店が販賣値段を殆んど毎日變更するは其店の信用を傷ける結果を呈する虞れがある。小賣値段が引下げられたる場合には左程物議を醸すまいが、或る商店の一顧客が昨日某店にて一個十錢に買入れたる商品をば今日求めに行けば値段が既に十一錢に引上げられて居り、明日は更に十二錢になると言ふが如きことあらば、其店は多分此顧客を失つて了ふであらうと思はれる。

第四款 卸相場と小賣相場との間に於ける變動率の相違

以上略述したる如く小賣値段は卸値段の如く頻繁に變更せられない爲めに、小賣相場の變動率は自ら卸相場の變動率よりも低くなるのであるが、尙ほ此の外に兩者の間に逕庭を生ぜしむる一原因がある。それは外でもない。各商店の小賣値

段は勿論其の卸値段よりも高いのであるから、假りに兩者に同額の騰貴若しくは低落が生じたとすれば、小賣値段の變動率は卸値段の變動率よりも當然低からざるを得ない。例へば卸値段が一個一圓であつて、小賣値段が一圓三十錢である一商品があるとして、假りに卸相場が一圓十錢に騰貴すれば、小賣値段は一圓四十錢に引上げられたかも知れない。若し果して然りとすれば、卸相場の騰貴率は一圓に對する十錢、即ち一割に上るに反し、小賣値段の騰貴率は一圓三十錢に對する十錢、即ち七分七厘弱に相當するに過ぎ無いのである。是れ即ち小賣相場の變動率をば卸相場の變動率よりも低からしむる一因に外ならない。